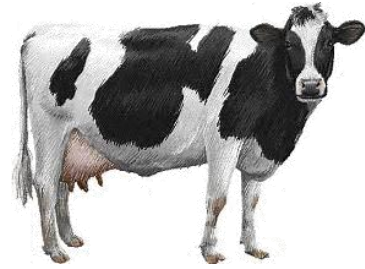


# 酪農振興関係予算（R4）

## 目的

- ・ 中小規模の家族経営が多い本県の酪農では、高齢化や担い手不足等を背景に飼養戸数が年々減少し、乳用初妊牛価格の安定しないなか、計画的な乳用後継牛の確保が困難となり、飼養頭数・生乳生産量が減少傾向にある。
- ・ 「ながさき酪農チャレンジ振興計画」に基づき、生乳生産を軸にした酪農経営の安定化と、生乳生産拡大を図るため、外部預託施設等を活用した乳用後継牛確保や、指導者育成等を通じた飼養技術向上を推進する。



（目標）経産牛頭数（H30: 6,080頭 ⇒ R7: 6,000頭）、経産牛1頭当たり生乳生産量（H30: 8,324kg ⇒ R7: 8,800kg）  
 年間生乳生産量（H30: 50,607t ⇒ R7: 52,800t）、平均除籍産次数（H30: 3.3産 ⇒ R7: 3.7産）  
 年間自家産乳用雌牛確保頭数（H30: 790頭 ⇒ R7: 1,350頭）、生乳産出額（H30: 51億円 ⇒ R7: 60億円）

## 現状と課題

- ▲ 高齢化・担い手不足を背景に、飼養戸数・頭数ともに減少傾向にあり、生産基盤の弱体化が進んでいる。
- ▲ 九州他県と比較すると、本県の生乳と副産物を合わせた収入は高いものの、素畜費や飼料費が高く、結果として所得が他県より低い。
- ▲ 全国的な乳用初妊牛価格の不安定化により、計画的な乳用後継牛の確保が困難となり、生乳販売による所得確保割合が低下し、酪農経営の持続性が懸念されている。

## 新規・拡充事業

### 畜産クラスター事業【国庫】

- ◇ 飼養管理施設の整備と生産性の向上
  - ・ 飼養管理施設の整備をはじめ、搾乳ロボットや自給飼料調製機械等を支援。

### 酪農経営支援総合対策事業【国庫】

- ◇ 酪農生産基盤の強化や酪農ヘルパーの利用拡大等を支援
  - ・ 猛暑対策等の飼養環境改善のための生産性向上に関する資料の導入等を支援

### 酪農増産体制構築事業（継続）【予算 386千円】

- ◇ 乳量・乳質の改善につながる生産性向上の取組みを支援
  - ・ 牛群検定成績等を活用した飼養管理技術向上や長命連産に向けたバーンミーティング方式の研修会の開催等を支援

### チャレンジ酪農推進事業（継続）【予算 11,027千円】

- ◇ 自家産乳用雌牛による後継牛確保割合の拡大
  - ・ 外部からの導入頭数を減らし、性選別精液等を活用した自家産乳用雌牛により、後継牛を確保する取組みを支援
- ◇ 乳用育成預託施設等の活用推進
  - ・ 育成期間の労力や育成場所の確保が困難な経営体の育成牧場等を活用した預託方式による乳用後継牛の育成を支援

## 効果

- 中心的経営体の増頭体制整備
- 飼料自給率の向上と省力化生産
- 生産コスト縮減

- 生産性の向上

- 乳用後継牛の効率的な確保・増頭
- 持続的な酪農経営の確立

- 省力化・生産性向上
- 生産基盤の強化
- 持続的な酪農経営の実現

農家の  
収益性向上